

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

桑名市立修徳小学校

人権課題

子ども

対象学年・  
取り扱った教科等

3年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・クラスで不安になる場面を出し合い、誰であっても不安を感じることがあることを知る。
- ・不安を感じている友だちの思いを知り、その問題を解決するために自分にできることは何かを考え、行動する。
- ・クラスで不安に思っていることを出し合ったり、相談し合ったりすることの大切さに気付く。

実施した内容

- ・1つの事例をもとに、何があったのか考え、不安がなくなった理由をグループで話し合う。
- ・クラス友だちが、どんなときに不安になるのか、どうして不安になるのかを話し合う。
- ・自分のことをふり返り、不安になった経験を書いて発表する。
- ・学年の実態にあった事例をもとに、不安になっている人のために自分にできることを考える。

工夫した点

- ・事前に不安とは別の似た学習を行い、子どもが考え発表しやすいようにした。
- ・グループやペアで話す時間を意図的につくり、少人数での話しやすい雰囲気なら話せる子どもに配慮した。
- ・実際に身の回りで起こっている事を事例にして、自分事として考えやすいようにした。

他教科との  
関連

事業成果

- ・知識的側面：81.8%→84.5% (+2.8)
- ・技能的側面：71.9%→76.4% (+4.5)
- ・価値・態度的側面：74.7%→75.4% (+0.7)
- ・自分と同じ不安を抱えている子がいることや、不安を抱えていると思っていなかった子どもが実は不安を抱えていたことなどを知ることができた。困った時や不安な時等にどうしたらいいのか、周りの意見を参考に考えることができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

桑名市立修徳小学校

人権課題

女性

対象学年・  
取り扱った教科等

1年・生活科

目標・人権教  
育のねらい

- ・家庭での家事分担に占める女性の割合の高さに気づく。
- ・家での仕事や外での仕事など、性別に関係なく、家族みんなで支え合っていくことの大切さが分かる。

実施した内容

- ・「家の仕事調べ」を行い、どんな仕事を誰がしているのかについて調べる。
- ・「家の仕事調べ」を交流し、気づいたことや各家庭でのちがいを話し合う。
- ・家事や外での仕事など、内容によって性別が偏っていることについて考える。
- ・「家の仕事調べ」交流で思ったことや感じたことを作文に書く。

工夫した点

- ・仕事調べの交流の際は、ひとり親家庭の子どもや、仕事を休んでいる保護者のいる家庭の子どもなど、さまざまな背景を抱えている状況があるので、あまり詳細な情報は聞かないようにするなど、個人情報の取り扱いに注意した。
- ・これから自分にできそうなこと、やってみたいことを文に書く活動を通して、自分の家族の仕事に目を向け、自分から参加する意欲を高めた。
- ・家庭にも取り組み内容を伝え、子どもが自分で行った仕事に対してコメントをもらい、意欲を高められる工夫をした。

他教科との  
関連

事業成果

- ・知識的側面：81.8%→84.5% (+2.8)    ・価値・態度的側面：74.7%→75.4% (+0.7)
- ・技能的側面：71.9%→76.4% (+4.5)
- ・それぞれの家庭のくらしを交流することによって、男女の固定化した役割分担ではなく、それぞれの家庭にはそれぞれの暮らし方があり、それは性によって決められたものではないことに気づく姿が見られた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

桑名市立修徳小学校

人権課題

高齢者

対象学年・  
取り扱った教科等

4年・総合的な学習の時間

目標・人権教  
育のねらい

- ・ 高齢者が住み慣れた地域で健やかに生活するために、どのような支援がなされているのかを知る。

実施した内容

- ・ 認知症の症状について学ぶ。
- ・ 認知症の人と接するときの心がまえについて学ぶ。

工夫した点

- ・ 寸劇を取り入れ、認知症の人に接するときの対応の良い例悪い例を寸劇に取り入れて提示し、分かりやすく理解できるようにした。
- ・ 認知症の人に接するときの対応についてDVDで分かりやすく理解できるようにした。
- ・ 東部包括支援センターの方にゲストティーチャーとしてきていただいた。実際の体験談など、より具体的な内容が示され、子どもたちに分かりやすいものとなった。

他教科との  
関連

事業成果

- ・ 知識的側面：81.8%→84.5% (+2.8)
- ・ 技能的側面：71.9%→76.4% (+4.5)
- ・ 価値・態度的側面：74.7%→75.4% (+0.7)
- ・ 認知症についてほとんど知識がなかった子どもたちが、どのような症状なのかを理解し、接し方によって症状が軽くなったり、安心して過ごせたりすることを学んだ。
- ・ 認知症サポーターとして認知症の人への接し方や家族の応援の具体的な方法を実践する心構えができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

桑名市立修徳小学校

人権課題

障がい者

対象学年・  
取り扱った教科等

4年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・障がいのある人の生活や思い、支援の仕方を学習し、今自分ができることについて考えることができる。
- ・福祉についての現状と課題に気づき、それを解決するために必要なことを考える力を身につける。

実施した内容

- ・普段の生活において障がいのある人がどのようなことに困っているか、地域の方の講話を聞く。
- ・車いす体験や点字学習体験を、福祉課と連携を取って行う。
- ・みんながくらしやすい社会について、福祉分野で自分の興味のあることについて各々が調べ、発表会を行い、クラスで共有する。

工夫した点

- ・二人組になって、車いすに乗る側と補助する側の体験をさせ、それぞれの立場に立って理解を深めることができるようにした。
- ・学校の中のピクトグラムを見つけ、自分たちでもオリジナルのピクトグラムを考案し、クラスで発表会を行った。なかまのアイデアにさらに刺激を受けて、より深く考える時間を意図的にとった。

他教科との  
関連

事業成果

- ・知識的側面：81.8%→84.5% (+2.8)
- ・技能的側面：71.9%→76.4% (+4.5)
- ・価値・態度的側面：74.7%→75.4% (+0.7)
- ・みんながくらしやすい社会について、福祉分野で自分の興味のあることについて各々が調べたことについて、授業公開日に発表を行い、児童だけでなく保護者とも福祉学習の取り組みについて共有することができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

桑名市立修徳小学校

人権課題

同和問題

対象学年・  
取り扱った教科等

6年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・決めつけや偏見から人間関係のゆがみや差別が生じていることを知る。
- ・クラスの中や、自分自身をふり返って、決めつけた見方や偏った考えがないかを問い直す。
- ・学習を通して、差別をなくすために自分ができることを考え、行動に移す。

実施した内容

- ・「龍安寺の石庭」「銀閣の庭園」などの学習を通して、決めつけた見方や偏った考えが自分たちにもないか振り返る。
- ・「渋染一揆」「全国水平社宣言」などの学習を通して、差別されてきた人々の気持ちや差別に立ち向かった姿を学ぶ。
- ・クラスのこと、自分自身のことについてふり返り、差別をなくすためにできることについて考える。

工夫した点

- ・修学旅行で見学する「龍安寺の石庭」と「銀閣の庭園」について事前に学習することで、見学地での理解をより深めることにつなげた。また、事前学習だけでは分からなかったことを実際に見たり聞いたりすることで、まとめの新聞づくりにつなげた。
- ・足利義政や杉田玄白など、差別する人々の価値観にとらわれない生き方に視点をあてた。
- ・自分も知らず知らずのうちに差別をしてしまっている側になっていないか、自分自身を見つめる時間を設定した。

他教科との  
関連

- ・社会科

事業成果

- ・知識的側面：81.8%→84.5%（+2.8）
- ・価値・態度的側面：74.7%→75.4%（+0.7）
- ・技能的側面：71.9%→76.4%（+4.5）
- ・歴史的な出来事を学び、決めつけや偏見から差別が生じていることを学ぶことができた。また、当時の人たちの立場になって気持ちを想像し、現在を生きる自分たちには同じような決めつけや偏見がないかを照らし合わせて考えることができた。
- ・クラスの中や、自分自身をふり返る活動を重ねることで、差別をなくすために自分ができることについて考えることができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

桑名市立修徳小学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・  
取り扱った教科等

6年・総合的な学習の時間

目標・人権教  
育のねらい

- ・アイヌ民族の文化や歴史について知る。
- ・先住民族の権利と、現在もあるアイヌ民族に対する人権侵害について理解する。

実施した内容

- ・アイヌ民族の文化、歴史を知る。
- ・アイヌ民族に係わる現状を知る（2019年の「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」を取り上げる）。
- ・アイヌの人々への偏見や差別は現在もあることを知り、差別をなくすためにはどうすればいいかを話し合う。

工夫した点

- ・アイヌ語由来の地名や言葉の学習を行うことで、アイヌの文化に興味・関心を持ちやすくした。
- ・アイヌの人々の伝統的な生活が想像しやすいように、多くの写真を提示することで可視化を図った。
- ・グループでの話し合いやクラス全体での話し合いを通して、自分や周りの人は異文化に対する偏見や差別を持っていないか振り返りを行った。

他教科との  
関連

- ・社会科

事業成果

- ・知識的側面：81.8%→84.5%（+2.8）
- ・技能的側面：71.9%→76.4%（+4.5）
- ・価値・態度的側面：74.7%→75.4%（+0.7）
- ・アイヌ民族の文化や歴史について知ることができた。
- ・先住民族の権利と、現在もあるアイヌ民族に対する人権侵害について理解することができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

桑名市立修徳小学校

人権課題

外国人

対象学年・  
取り扱った教科等

2年・生活科

目標・人権教  
育のねらい

- ・世界には、様々な国や地域があり、言語や文化、習慣が違うことに気づくことができる。

実施した内容

- ・あいさつの仕方の違いから、世界には多様な文化や習慣があることを知る。
- ・外国のじゃんけんや遊びを通して、外国の子どもの生活に触れる。
- ・身近にある外国の料理を調べて発表会を行うことで、より多くの国の食文化にふれる場を設定する。

工夫した点

- ・生活科「友だちたんけん」の学習で、外国籍の児童から話を聞く場を設け、もっと友だちのことを知りたいという気持ちをもって学習に臨めた。
- ・じゃんけんや遊び、歌など、子どもたちがより興味深く学習するために、実際の体験を多く取り入れた。
- ・外国籍の児童や保護者に協力してもらい、事前にその国の文化や食生活などの資料をいただいた。また、児童から自分の国の紹介を行った。

他教科との  
関連

- ・道徳
- ・音楽科
- ・特別活動

事業成果

- ・知識的側面：81.8%→84.5% (+2.8)
- ・技能的側面：71.9%→76.4% (+4.5)
- ・価値・態度的側面：74.7%→75.4% (+0.7)
- ・遊びやクイズなどの活動をとおして、楽しみながら外国の文化にふれ、関心を持つことができた。
- ・外国籍の児童も、自分の国に誇りをもって、クラスで自分の国の紹介をすることができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

桑名市立修徳小学校

人権課題

HIV感染者等

対象学年・  
取り扱った教科等

6年・総合的な学習の時間

目標・人権教  
育のねらい

- ・感染症について学習したことや「患者の人権」の学習をふりかえり、感染症に関連する偏見や差別について考え、適切な行動ができるようになる。

実施した内容

- ・コロナウイルス感染症に関わって、実際に不安な思いをした子どもたちの気持ちを取り上げ、偏見や差別について考える。
- ・感染症にかかった人たちへの態度について、自分だったら、家族だったらと想像することによってどんな態度や行動が相応しいかについて交流する。

工夫した点

- ・保健体育科で学習したことを取り入れながら、エイズの感染経路など科学的な認識が伝わるように丁寧に説明した。
- ・正しい知識を学ぶことが噂に振り回されることなく、差別をなくすことにつながるという視点を大切にして授業を進めた。

他教科との  
関連

- ・保健体育科

事業成果

- ・知識的側面：81.8%→84.5% (+2.8)
- ・技能的側面：71.9%→76.4% (+4.5)
- ・価値・態度的側面：74.7%→75.4% (+0.7)
- ・患者に対する誹謗中傷は差別であるということを、これまでに学習してきた人権学習に関連させてとらえることができた。
- ・自分の身近に起きる感染症の一つであることを理解し、科学的な認識に基づいた行動について、自分事として学習を進めることができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

桑名市立修徳小学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・  
取り扱った教科等

5年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ハンセン病について、医療面、歴史的経緯から正しく理解し、認識を深める。
- ・様々な病気に関する情報を正しく理解し、偏見にとらわれず、正しく判断することができる。
- ・命の尊さを自覚し、患者や元患者と共生を図っていこうとする態度を持つ。
- ・同様の悲劇を二度と起こさないために、患者や元患者に対する差別をなくしていく姿勢をもつ。
- ・知らないこと（知ろうとしないこと）や、不確かなことを信じたりまわりの意見に流されたりすることが差別につながるということに気づき、事実を確かめようとする事ができる。

実施した内容

- ・人権啓発動画「ハンセン病問題を知る ～元患者と家族の思い～より抜粋」を用いる。
- ・『わたしかがやく（三重県人権学習教材）』の教材、「“ゆきえ”さんとの出会い」を使用し、患者の思いを知り、今もなお残る差別について考える。
- ・自分の今までの経験の中で、自分自身の力ではどうすることもできないことについて考えさせ、自分自身を見つめ直したり、自分の中にある差別心に気づいたりする中で、自分がどのようにまわりの人と関わっていくとよいかについて考える。

工夫した点

- ・新型コロナウイルスの流行という経験から、「自分が感染症にかかったら」ということを考え、ハンセン病だけでなく、様々な感染症が流行するたびに差別が起こりうる可能性があり、自分たちにとって身近な問題であることに気づかせた。
- ・元患者の“ゆきえ”さんが自分たちと同じ5年生のころに不登校となってしまったことを伝え、“ゆきえ”さんの立場に立って考えられるようにした。
- ・差別や偏見が繰り返される可能性もあることをしっかり受け止め、同じ過ちを起こさないようにするためにはどうしたらいいのか、一人ひとりに考える時間を意図的に設定した。

他教科との  
関連

- ・特別活動
- ・保健体育科
- ・理科

事業成果

- ・知識的側面：81.8%→84.5%（+2.8）
- ・価値・態度的側面：74.7%→75.4%（+0.7）
- ・技能的側面：71.9%→76.4%（+4.5）
- ・初めて聞く病気や残酷な差別の現実について知ること、差別はおかしいという気持ちを強く持つことができた。
- ・「自分自身の力ではどうすることもできないこと」に対する差別のおかしさを学ぶ中で、自分自身を見つめることにつながった。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

桑名市立修徳小学校

人権課題

刑を終えて出所した人

対象学年・  
取り扱った教科等

6年・総合的な学習の時間

目標・人権教  
育のねらい

- ・ 刑を終えた人、保護観察中の人の社会復帰を支えるためには、まわりの人が偏見や差別意識を持たずに関わる必要があることを理解する。

実施した内容

- ・ 「刑」についての基本的なことがらを知る。
- ・ 刑を終えた人が社会復帰するときを困ることを考える。
- ・ 社会復帰を支えるためには何が大切か、考えたことを交流する。
- ・ 交流して感じたことをふりかえり、文章に書く。

工夫した点

- ・ 社会復帰を支えるために大切なことを整理しやすくするために、「本人」と「まわりの人」に分けて考えさせた。
- ・ 罪を犯したから「助ける必要はない」と考えることも想定して、刑を終えた人が立ち直ることができるようにするための取り組みや「社会を明るくする運動」等の立ち直りを支援する活動やそれに携わる人々の思いについても触れた。

他教科との  
関連

- ・ 社会科

事業成果

- ・ 知識的側面：81.8%→84.5% (+2.8)
- ・ 技能的側面：71.9%→76.4% (+4.5)
- ・ 価値・態度的側面：74.7%→75.4% (+0.7)
- ・ 刑を終えた人の実際の作文からその人たちの思いを考えることによって、社会復帰を支えるためには、本人たちだけの問題ではなく、まわりの人が偏見や差別意識を持たずに関わる必要があることを理解することができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	三重県	学校名	桑名市立修徳小学校
人権課題	犯罪被害者の人権	対象学年・ 取り扱った教科等	5年・総合的な学習の時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 犯罪被害者等は、被害後に生ずる様々な問題によって苦しめられることに気づき、個々に応じた支援、配慮の必要性を理解する。</li> <li>・ 励ますつもりでかけた言葉でも被害者等に精神的苦痛を与える可能性があることに気づき、言葉の受け止め方は一人一人違うことを理解する。</li> </ul>		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習補助資料『みらいをひらく』の「犯罪被害者等の気持ち」を読んで、当事者の気持ちを理解する。</li> <li>・ 本人やその家族は、身体的被害だけでなく、精神的、経済的にも負担を強いられることに気づく。</li> </ul>		
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aさんに対して、クラスメイトはどんな支援や配慮ができるか考えた。</li> <li>・ ペアやグループ学習を取り入れることで話しやすい雰囲気を作った。</li> <li>・ AさんやAさんの家族にどんなことが起こるかなど過程を明確に絞って、考えやすくした。</li> <li>・ 学習補助資料1, 2の統計資料等をたくさん取り入れ、犯罪被害者の気持ちをより理解しやすく工夫した。</li> </ul>		
他教科との 関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳</li> <li>・ 社会科</li> </ul>		
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識的側面：81.8%→84.5% (+2.8)</li> <li>・ 技能的側面：71.9%→76.4% (+4.5)</li> <li>・ 価値・態度的側面：74.7%→75.4% (+0.7)</li> <li>・ 犯罪被害者等は、被害後に生ずる様々な問題によって苦しめられることに気づき、個々に応じた支援、配慮の必要性を理解することができた。日常生活の中でも、相手の気持ちに寄り添った言葉かけが大切になることを学ぶことができた。</li> </ul>		

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

桑名市立修徳小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・  
取り扱った教科等

3年・総合的な学習の時間

目標・人権教  
育のねらい

- ・楽しいコミュニケーションについて考える。
- ・自分と友だちの感じ方の違いが、ネットトラブルのもとになることに気づく。

実施した内容

- ・クラスの友だちから言われてイヤだと感じる言葉について交流し、自分と相手の「ちがい」に気づく。
- ・ネットを使用するときにはイヤだと感じることについて交流し、自分と相手の「ちがい」に気づく。
- ・ネットの特性（相手の表情・感情がわからないので相手がイヤがっていることに気づきにくいこと）を知る。
- ・ネットを使うことで起きる可能性があるトラブルについて考える。
- ・楽しいコミュニケーションをしていくためにどうすればよいか考える。

工夫した点

- ・子どもたちに馴染みのあるLINEの会社が提供している「ネットコミュニケーション・リテラシー教育 基本編」を活用した。
- ・これまでに人権学習で行ってきた「イヤだな」と感じる場面には違いがあるという導入からネットの問題に迫っていった。
- ・グループを活用し起こりうるトラブルの可能性について話し合う場を設けた。そして、それをクラスで共有しあうことでこれからどうしていけばよいかさらに考えを深める時間も設定した。

他教科との  
関連

事業成果

- ・ 知識的側面：81.8%→84.5% (+2.8)    ・ 価値・態度的側面：74.7%→75.4% (+0.7)
- ・ 技能的側面：71.9%→76.4% (+4.5)
- ・ インターネットを使ってコミュニケーションをとる際に、トラブルの可能性を考えながら使うことができるようになった。
- ・ ネット上のことだけでなく、自分と相手の感じ方が違うことに気づき、相手の気持ちを考えて行動できるように日常生活においても振り返って考えることができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	三重県	学校名	桑名市立修徳小学校
人権課題	北朝鮮当局による拉致問題等	対象学年・ 取り扱った教科等	5年・総合的な学習の時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拉致被害者を「助け出したい」という思いや願いの強さを理解する。</li> <li>・ 拉致は「自由・平等に生きる権利」「家族と生活を送る権利」等の多くの権利を侵害することに気づき、拉致問題に対する関心を高める。</li> </ul>		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アニメ『めぐみ』を視聴し、めぐみさんの両親の気持ちを考える。</li> <li>・ めぐみさんの母、早紀江さんが書いた文を読み、思いを知る。</li> <li>・ 私たちの持っている人権について考える。</li> </ul>		
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会科で学習した拉致問題について確認した。</li> <li>・ 拉致によって引き裂かれたわが子を思う両親の気持ちを題材に取り入れ、この問題に対する正しい理解と協力を求めて活動する両親の姿に共感させるとともに「自分のこと」として関心を持たせるようにした。</li> <li>・ 拉致問題は、北朝鮮の国家による人権侵害であり、北朝鮮につながりのある人や、北朝鮮で暮らす一般市民の人権への配慮が必要であることを確認し、新たな差別や排除がおこらないようにした。</li> </ul>		
他教科との 関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会科</li> <li>・ 道徳</li> </ul>		
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識的側面：81.8%→84.5% (+2.8)    ・ 価値・態度的側面：74.7%→75.4% (+0.7)</li> <li>・ 技能的側面：71.9%→76.4% (+4.5)</li> <li>・ 拉致被害者やその家族にとっては重大な人権侵害であることを知ることができた。</li> <li>・ 北朝鮮当局以外の北朝鮮の人々をはじめとした朝鮮半島の人々や、日本で生活する朝鮮半島につながりのある人々に責任を帰する問題ではないことを知り、これらの人々に対する差別、偏見等が生じないように理解することができた。</li> </ul>		

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

桑名市立修徳小学校

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・  
取り扱った教科等

2年・生活科

目標・人権教  
育のねらい

- ・ 無意識に固定的な見方や考え方を持っていることに気づく。
- ・ 性別に関係なく、好きなものを選んでよいことを知る。
- ・ 一人ひとりのちがいを理解し、尊重し合うことが大切なことを理解する。

実施した内容

- ・ どちらの色が好きなのかについて2択で尋ね、理由を問う（3問）。
- ・ 「紙ひこうき」のお話を途中まで聞き、この文章の中の不思議なところを見つけ線を引き、共有する。
- ・ お話の続きを聞き、感じたことをワークシートに書き、意見交流をする。
- ・ Tシャツが描かれた紙に、自分の好きな色を塗り、自分だけのTシャツを作る。

工夫した点

- ・ 2択の問題を最初に行うことで、全体的な傾向とは異なる色を取り上げつつ、性別と色との固定観念に気づくことができるようにした。
- ・ 色には男色、女色はなく、自分の好きな色を選んでよいということを確認した。
- ・ 実際にTシャツに好きな色を塗ることで、人によって好きな色が異なることや選んだ色の傾向は男女で分けられないことを視覚化した。

他教科との  
関連

- ・ 道徳

事業成果

- ・ 知識的側面：81.8%→84.5%（+2.8）
- ・ 価値・態度的側面：74.7%→75.4%（+0.7）
- ・ 技能的側面：71.9%→76.4%（+4.5）

- ・ 子どもたちは、色には男女関係ないという認識を持っていたが、それでも自分の考えを押し付けようとする様子も見受けられた。この学習を通して、人によって好み異なることを知り、友だちの好みを大切にしようとする姿がみられるようになった。